

「自由を生き抜く実践知」の育みをサポート する法政大学DX推進計画

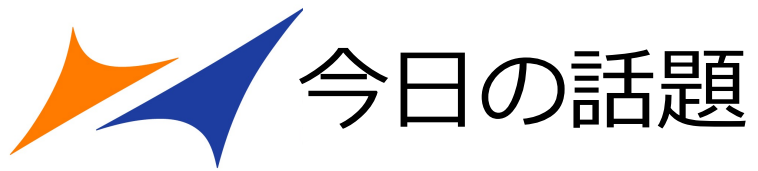
教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
センター長 山本 兼由
(生命科学部 教授)



法政大学におけるデジタルフォーメーションの捉え方

法政大学DX推進計画

HOSEI Hi-DXによる3つのレベルでの教育学習支援



法政大学におけるデジタルフォーメーションの捉え方

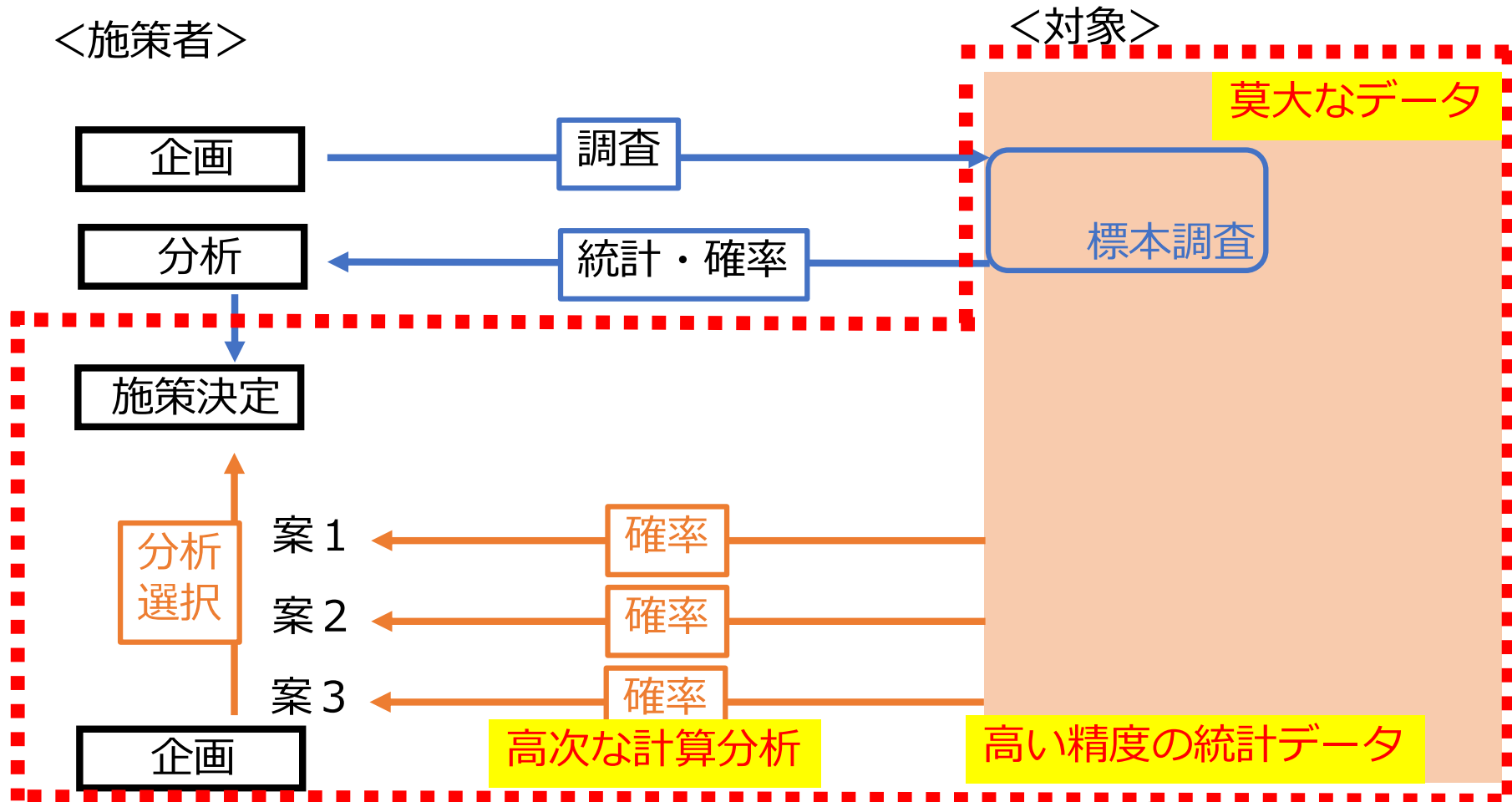
法政大学DX推進計画

HOSEI Hi-DXによる3つのレベルでの教育学習支援

デジタルトランスフォーメーション

情報技術の発展と社会実装がDXを可能としている

- 多量なデジタル情報の蓄積を可能→高い精度の統計データ
- デジタル情報の計算能力が向上→高次な計算分析
- デジタル情報が社会インフラにコミット→莫大なデータ



DXの事例

ビックデータの統計・確率分析

パーソルキャリア

求人広告を動画化。
A/Bテストで、動画掲載の有効性を実証。

NTT東日本

WiFi、セキュリティ、クラウド、AI、RPAなどを商材化。
企業のICTニーズを開拓。個人のパーソナライズ強化。

デジタルデータ設定と統計・確率分析

SOMPOひまわり生命保険

Web上でリードを取り、対面販売に継続。
データを活用したパーソナライズ強化。

吉本興行

チケット購入・コンテンツ閲覧など共通IDプラットフォーム。
データを活用したリコメンド。

ネスレ日本

コーヒーマシン販売へ転換。キャッシュレス決済を導入。
顧客消費データベースから、パーソナライズ強化。

90日で成果をだすDX入門, 2020, 日本経済新聞出版社

ユーザーエクスペリメント UXとユーザーインターフェイス UIに着目したシェアの確保



大学DXが支援する3つの観点

大学の高等教育は「頑健性」をもちながら「多様性」を志向し、
新しい「創造」を目指す。

「頑健性」への支援 **大学における教育学習データベースの構築**

大学を規定する法令の遵守→学校法人としてのコンプライアンス
学士力の涵養：「知識・理解」「汎用能力」「態度・志向性」「創造的思考」
質的転換：学生の主体的な学び／設置認可から認証評価へ
教学マネジメント：3つのポリシー制定と内部質保証体制の構築

「多様性」への支援 **学びの個別最適化**

大学が求められる社会的役割→高度学修の修了生・卒業生輩出
目覚ましい知識の蓄積：効率的な教育学習
知識に基づき加速する技術開発：論理的な教育学習
変化する社会情勢：主体的な教育学習

「創造」への支援 **教育研究の柔軟な運営と高度化**

大学が期待される科学的役割→新しい社会貢献の創造



諸外国の大学設置認可について

	アメリカ			イギリス			フランス			ドイツ		
設置認可等の概要	<p>高等教育機関の設置認可は、各州政府が行う。さらにこの後、学位授与機関としての資質を審査された上で、州政府から学位授与権を与えられる。したがって、設置の認可はいわゆる仮認可にすぎず、学位授与権の認可を得て正式の認可とみなされる。</p> <p>設置認可及び学位授与権の認可は、各州で定められた基準に基づいて行われる。</p>			<p>伝統的な大学は、国王の設立勅許状により大学法人としての法的地位と学位授与権を与えられている。これら大学の設置認可については、特に法令上の基準はなく、その都度個々に審査が行われ勅許状が交付されてきた。</p> <p>従来、地方教育当局の一機関であった「ポリテクニク」等も、現在は政府により一定の条件下に法人化され、枢密院から学位授与権と「大学」の名称が与えられている。学位授与権と大学の名称を与えるための条件について法令上の規定はない。</p>			<p>* 私立大学は歴史的経緯により「大学」の名称を使用しているが、法律上は大学として認められていない</p> <p>私立高等教育機関の設置申請は、大学区（数県で構成する教育行政の地方単位）に対して行うこととされており、大学区の責任者である総長がこれを審査・認可する。その際、大学区国民評議会（大学区における教育全般に関する問題を審議する機関であり、地域県議会・県議会等の代表、初等中等教育の教職員の代表、父母・地域の経営者団体・労働組合等の代表等で構成）に諮ることになっている。</p> <p>私立大学は、学位授与権を有していないが、国立大学と提携して国立大学から学位授与が行われるものもある。</p>			<p>大学大綱法において、私立の高等教育機関の設置については、州立高等教育機関に劣らない学修が行われること、入学志願者、教員などの質が州立高等教育機関と同等であることが認可の条件とされている。これを一般原則として、各州の大学法等に規定が設けられており、これに基づいて、州ごとに認可が行われている。</p>		
	<p>大学数は、私立が7割以上を占めているが、学生数は州立大学が7割近く占める。</p>			<p>運営費における公費支出の割合が高く（55%：1996年）、実質的にほぼ全ての大学が国立大学に相当。</p>			<p>全ての大学が国立大学。</p>			<p>大学の多くが州立大学。学生数は州立大学がほとんどを占める。</p>		
大学の概要	1997年度	大学数	在学生数(千人)	1997年度	大学数	在学生数(千人)	1997年度	大学数	在学生数(千人)	1997年度	大学数	在学生数(千人)
	州立	615 (-27%)	5835 (-66%)	国立に相当	87 (-99%)	1166	国立	87 (-100%)	1311 (-100%)	州立	270 (-80%)	1809 (-98%)
	私立	1694 (-73%)	3040 (-34%)	私立	1 (-1%)	・・・				その他	65 (-20%)	30 (-2%)
	短期大学を除く			在学生数には高等教育カレッジ分含む			* 私立大学 17校、22千人			高等専門学校含む		

中央教育審議会大学分科会将来構想部会（第2回）議事録資料, 2001, 文部科学省





日本における私立大学の法的根拠

<法律>

教育基本法

(S22→H18)



学校教育法

(S22→→→→)

<政令>

学校教育法施行令

(S22→→→→)

<省令>

学校教育法施行規則 (S22→→→→)

学位規則 (S22→→→→)

高等専門学校設置基準(S36→→→→)

短期大学設置基準 (S50→→→→)

短期大学通信教育設置基準 (S57→→→→)

大学設置基準 (S31→→→→)

大学通信教育設置基準(S56→→→→)

大学院設置基準 (S49→→→→)

専門職大学設置基準 (S15→→→→)

私立学校法

(S25→→→→)

私立学校法施行令

(S25→→→→)

私立学校法施行規則 (S25→→→→)





日本私立大学が担う社会的「頑健性」

<目的>

学術の中心として、高い教養と専門的能力を授ける。
深い真理探究・新たな知見創造を広く社会に提供する。
自主性、自律性、その他の教育研究の特性を尊重する。

<機会均等>

その能力に応じた教育を受ける機会を確保。

<組織など>

文部科学大臣の定める設置基準に従い大学を設置。
自主的にその運営基盤の強化。
教育の質の向上及び運営の透明性を確保。

課程：修業年限は4年。医学・歯学・薬学・獣医学は6年

組織：学長、教授、准教授、助教、助手及び事務職員。





「多様性」と「創造」を担う法政大学の構成

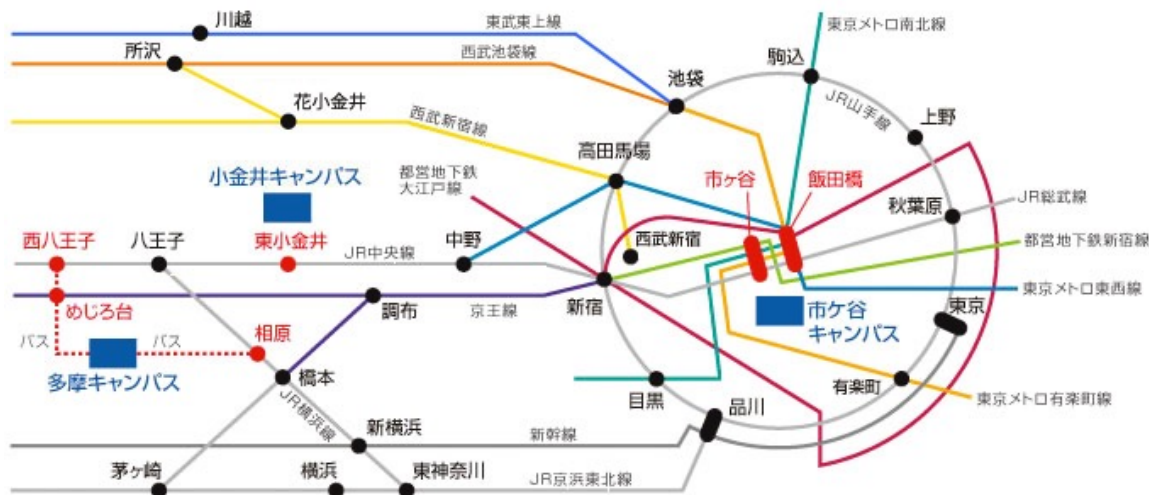
17 専門職大学院2研究科
大学院15研究科
(3インスティテュート)

3,000名の大学院生

15 15学部
通信教育課程 (3学部)

27,000名の学部生

6,000名の通信教育学生



800名の専任教員

400名の専任職員



約束

自由を生き抜く実践知

法政大学は、近代社会の黎明期にあって、
権利の意識にめざめ、法律の知識を求める
多くの市井の人びとのために、
無名の若者たちによって設立されました。

校歌に謳うよき師よき友が集い、
人びとの権利を重んじ、多様性を認めあう「自由な学風」と、
なにものにもとらわれることなく公正な社会の実現をめざす
「進取の気象」とを、育んできました。

建学以来のこの精神を受け継ぎ、
地球社会の課題解決に貢献することこそが、本学の使命です。

本文

その使命を全うすべく、
多様な視点と先見性をそなえた研究に取り組むとともに、
社会や人のために、真に自由な思考と行動を貫きとおす
自立した市民を輩出します。

地域から世界まで、あらゆる立場の人びとへの共感に基づく
健全な批判精神をもち、
社会の課題解決につながる「実践知」を創出しつづけ、
世界のどこでも生き抜く力を有する
あまたの卒業生たちと力を合わせて、
法政大学は持続可能な社会の未来に貢献します。

自由の尊重／進取の気象



自由と進歩



実践知

人や社会のために考え行動する力 世界の現場で活躍する力 他者を理解し協調する力



法政大学のディプロマポリシー

教育目標・各種方針

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

目指す「多様性」

↑ 教育目標・各種方針

本学では、先に述べた教育目標を達成するために、本学学生が本学における教育と学習を通じて次の能力を修得することを大学全体の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）としている。学生はこれらに加えて、学部・研究科が設定するそれぞれの学位授与方針を満たすことによって学位を授与される。

1. 本学の理念である「自由と進歩」の精神を理解し、「自由を生き抜く実践知」の生涯にわたる獲得の基盤が身に付いている。
2. 主体的、自主的、能動的な姿勢が身に付き一定の思考力、判断力、表現力を獲得している。
3. 論理的分析的思考力が身に付いている。
4. 日本語、外国語、メディア・リテラシーの一定の能力を獲得することで、広い人間理解が身に付いている。
5. 複数の言語を用いて自己の意見を表明し、他者に配慮しながら積極的に意見交換することができる。
6. 異なる価値観や文化、生活に直接触れる「グローバル体験」を経ることによって、グローバルな視点をもちつつ、地域社会の価値への深い認識を獲得している。
7. 「持続可能な地球社会の構築」への理解と、その実践知が身に付いている。
8. 人文科学、社会科学、自然科学などの基礎学問をもとに、各学部における専門分野を修得している。
9. 人文科学、社会科学、自然科学などの基礎学問と、その応用との関係を学び、それぞれの学問分野の関連を理解している。
10. 日本と世界の多様な文化、歴史、社会、技術を総合的に学び、日本と世界に関して多面的、客観的に理解し発信することのできる能力を持っている。

各学部・研究科・通信教育課程の学位授与方針

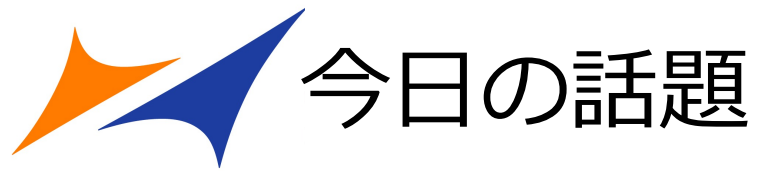
「頑健性」をもつ専門 と時代を切り拓く「創造」

→ 各学部

→ 大学院 各研究科

→ 専門職大学院 各研究科

→ 通信教育課程



法政大学におけるデジタルフォーメーションの捉え方

法政大学DX推進計画

HOSEI Hi-DXによる3つのレベルでの教育学習支援

学びの質向上 ✕ 教育の高度化 ✕ 学修者本位の教育

教育環境の高度化

- ・ リアルとデジタルの長所を最大限生かした教育・学習環境の提供

対面とオンラインのベストミックスで学生の様々な活動に対応、教育学習ポートフォリオシステムの構築、個別最適化されたサービスの提供

教育(手法/内容)の高度化

- ・ 高度デジタル教育プログラムによる現実(=今)を超えた教育の実現

VR/AR技術を駆使した新たな学びの形の創出、学部教育の高度なオンライン化、海外大学等との連携プログラム、リカレント・リスキルプログラムの開発

教育支援の高度化

- ・ 統合デジタル化による高次元デジタル情報プラットフォームの構築

学修履歴・学修成果や学びの活動を一元管理、ディプロマ・インディケーターで達成度を可視化、オンデマンドシステムや授業支援システムの高度化

<共通施策>

デジタルリテラシー教育、セキュリティと個人情報の保護、デジタルデバイドの解消、諸手続きやサービスのデジタル化

全学的効果

専門知と実践知の融合/新しい学びの価値の創出/
学生生活の抜本的变化/コミュニケーションモデルの進化



HOSEI Hi-DX推進の概要

デジタイゼーション

アナログ情報のデジタル化

教務システム

- 科目情報
- 履修管理
- 成績管理

FD支援システム

- シラバス
- 学習支援システム (LMS)
- 授業アンケートシステム
- オンデマンドシステム
- 授業支援アシスタントシステム
- ピアネット

IRシステム

- 新入生・卒業生アンケート

デジタルライゼーション

デジタル情報の連携

教務システムの改修

- 科目情報・履修管理・成績管理
- 活動履歴・DPナンバーの追加

FD支援システムの改修

- シラバス・LMS・アンケート
- オンデマンド・アシスタント
- 剽窃ソフト・Zoomなどの連携

HOSEI Hi-DXプラットフォーム

- ポータルサイトHoppii強化

--

ピアネットのデータベース連携

IRシステムのデータベース連携

全学共通教育科目のインプット

デジタルトランス フォーメーション

デジタル情報技術での改革

授業レベルの支援

- シラバス・LMS中心の授業運営
- アクティブラーニングの推進
- 仮想空間の実技・実習授業開発

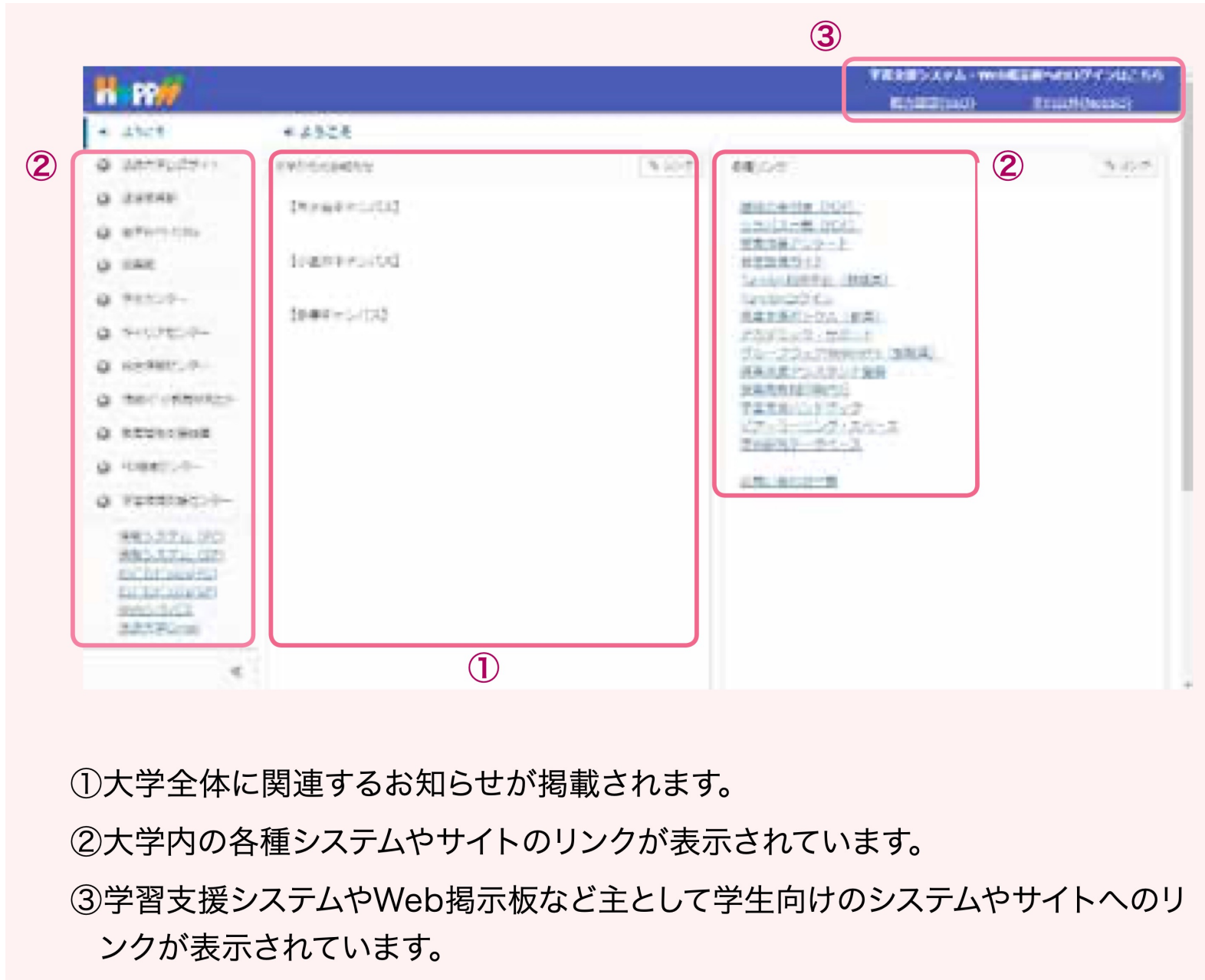
学部レベルの支援

- 学習カルテの作成
- カリキュラム運営データの提供
(アンケート・GPA)
(履修パターン・DPインディケータ)

全学レベルの支援

- リメディアル教育
- 全学共通教育科目
- 教室レベルのキャンパス活用

ポータルサイトHoppii




The screenshot shows the Hoppii portal site interface. It features a blue header with the Hoppii logo and navigation links. The main content area is divided into three sections, each highlighted with a red box and a numbered callout:

- ①** A central box containing a list of university-wide notices or announcements.
- ②** A left sidebar containing a list of links to various university systems and sites.
- ②** A right sidebar containing a list of links to student-oriented systems and sites, such as the learning support system and web bulletin board.

③ A red box highlights the top right corner of the page, containing the text "学習支援システム・Web掲示版へのリンクはこちら" and "English (English)".

- ①大学全体に関連するお知らせが掲載されます。
- ②大学内の各種システムやサイトのリンクが表示されています。
- ③学習支援システムやWeb掲示版など主として学生向けのシステムやサイトへのリンクが表示されています。



今日の話題

法政大学におけるデジタルフォーメーションの捉え方

法政大学DX推進計画

HOSEI Hi-DXによる3つのレベルでの教育学習支援



法政大学DXが支援する3つのレベル

1 つの憲章

17 研究科

30,000 名の構成員

15 学部

15,000 超の科目

アドミッション・カリキュラム・ディプロマポリシー

全学レベル

学部・研究科レベル

授業レベル

教育環境の高度化

- ・ リアルとデジタルの長所を最大限生かした教育・学習環境の提供

対面とオンラインのベストミックスで学生の様々な活動に対応、教育学習ポートフォリオシステムの構築、個別最適化されたサービスの提供

教育(手法/内容)の高度化

- ・ 高度デジタル教育プログラムによる現実(=今)を超えた教育の実現

VR/AR技術を駆使した新たな学びの形の創出、学部教育の高度なオンライン化、海外大学等との連携プログラム、リカレント・リスキルプログラムの開発

教育支援の高度化

- ・ 統合デジタル化による高次元デジタル情報プラットフォームの構築

学修履歴・学修成果や学びの活動を一元管理、ディプロマ・インディケーターで達成度を可視化、オンデマンドシステムや授業支援システムの高度化

<共通施策>

デジタルリテラシー教育、セキュリティと個人情報の保護、デジタルデバイドの解消、諸手続きやサービスのデジタル化

Hi-DXによる学習/学修/実践知支援

学びの個性

企画

施策

周知

履修

分析

点検

学びの点検

設計

履修計画

改善

報告

学修

指導

履修

点検

実績データ

改善

計画

履修

学習

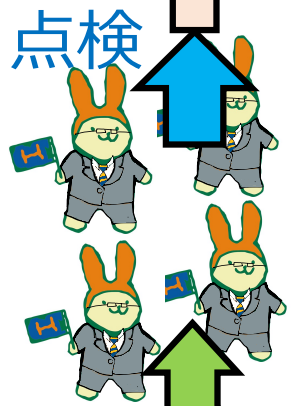
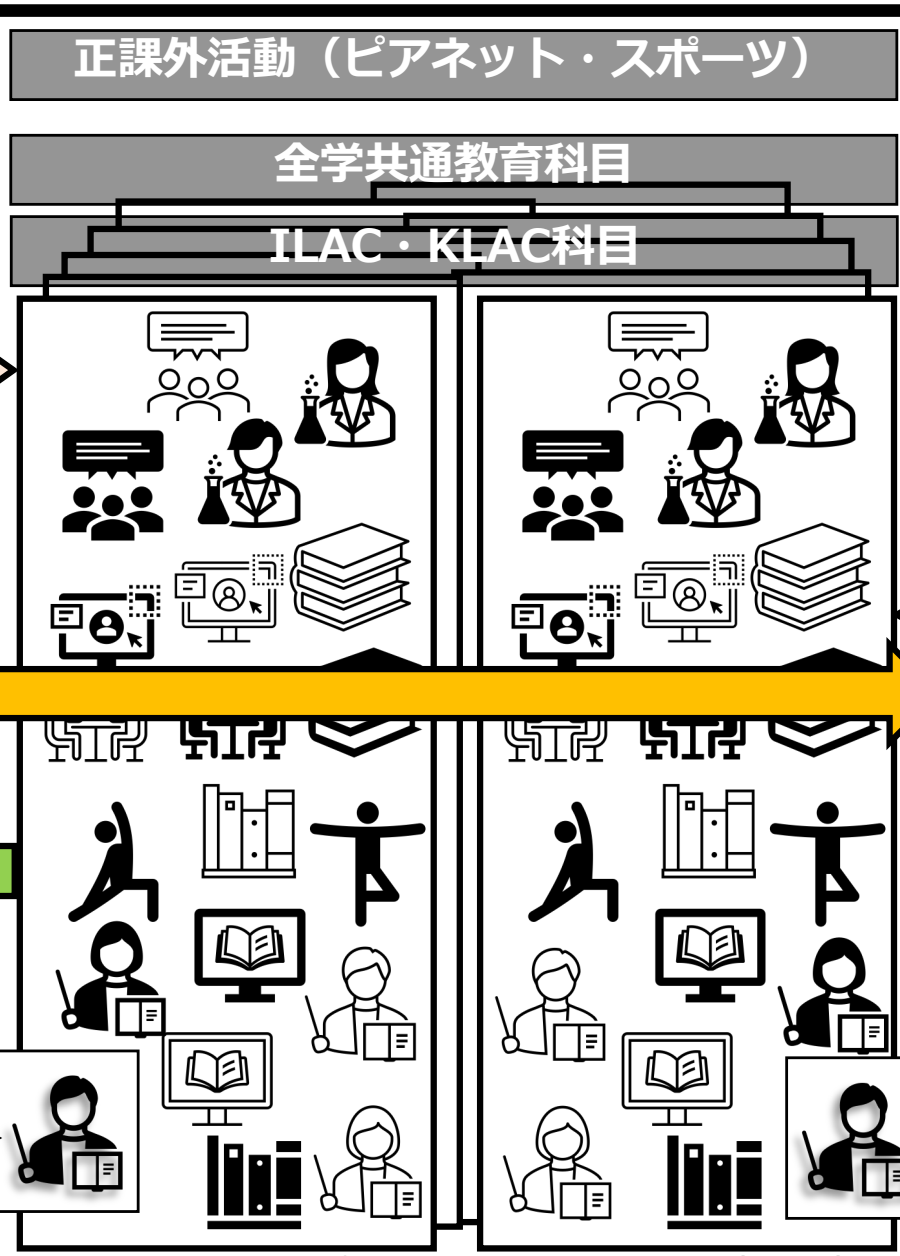
改善

授業

受講

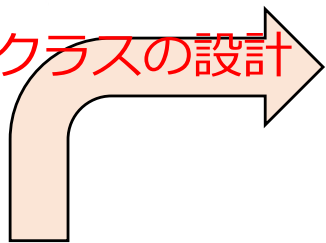
評価

点検

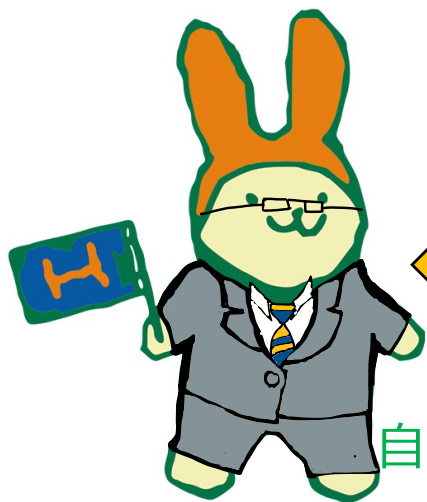
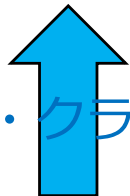


授業（コース・クラス）レベルの支援

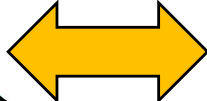
コース・クラス的设计



コース・クラスの点検



教授



自己評価

クラス評価
教員評価

アンケート集計
GP集計・GPCA

コース概要・目的

到達目標

習得するDP

学生の意見等からの気づき

クラスの進め方

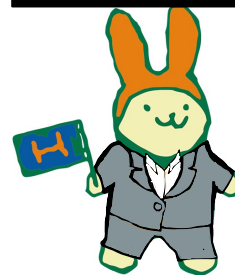
アクティブラーニング有無

フィールドワーク有無

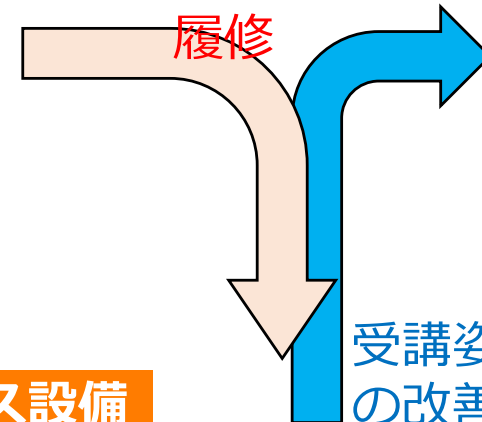
参考書・テキスト

成績評価の方法と基準

シラバス



履修



受講姿勢
の改善

ハイフレックス設備

教員・派遣学生による授業参観

授業支援アシスタント

クラス時間外の学習

学習支援システム

コース計画：対面 or オンライン

第1回 テーマ 内容 対面

第2回 テーマ 内容 オンデマンド

第3回 テーマ 内容 リアルタイム

オンデマンドシステム

オンライン

剽窃ソフト

Zoom / Webex

授業改善アンケート

FDシステム

成績評価

教務システム

受講



自己評価

クラス評価
教員評価

アンケート集計
GP

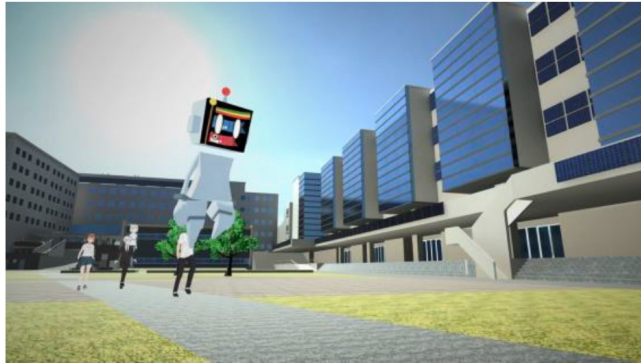


授業カルテ

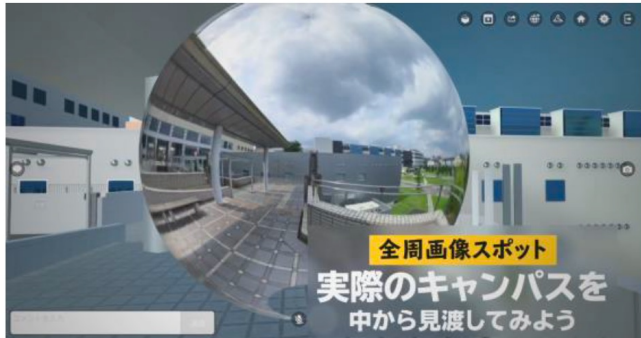


VR・AR・MRを活用した実技・実習の支援

バーチャル小金井キャンパス（2020年度）



スマートフォンやPC、HMDを用いると、リアルタイムで生成されるCGで、再現されたキャンパスを探索



においても常に活躍...
◆最先端の知識や技術を身
のエキスパートを目指しま

特定の場所では 実写をも
ちいた全周画像も体験可能

デジタル空間を活用した演習の支援

11月4日オンデマンドゲノム生物学学術セミナー

吉村美歩・2021/11/01
100点

(1) Google Classroom「11月4日オンデマンドゲノム生物学学術セミナー」にある「要旨」「スライド資料」を確認してください。
 (2) Google Classroom「11月4日オンデマンドゲノム生物学学術セミナー」にある「動画」を聴講してください。
 (3) Slack「2021年度_ゼミチャンネル」で質疑し、発表者は応答するようにしてください。議論の締め切りは11月4日とします。聴講者は1つ以上は意見や質問を記入してください。発表者、適宜意見や質問の応答を記入してください。
 (4) 質疑応答後、Google Classroom「11月4日オンデマンドゲノム生物学学術セミナー」にある「レビュー」に回答し、11月5日までに提出してください。
 (5) 発表者は、Google Classroom「11月4日オンデマンドゲノム生物学学術セミナー」にある「レビュー」に自己評価として回答し、同じように11月5日までに提出してください。

11月4日レビュー
Google フォーム

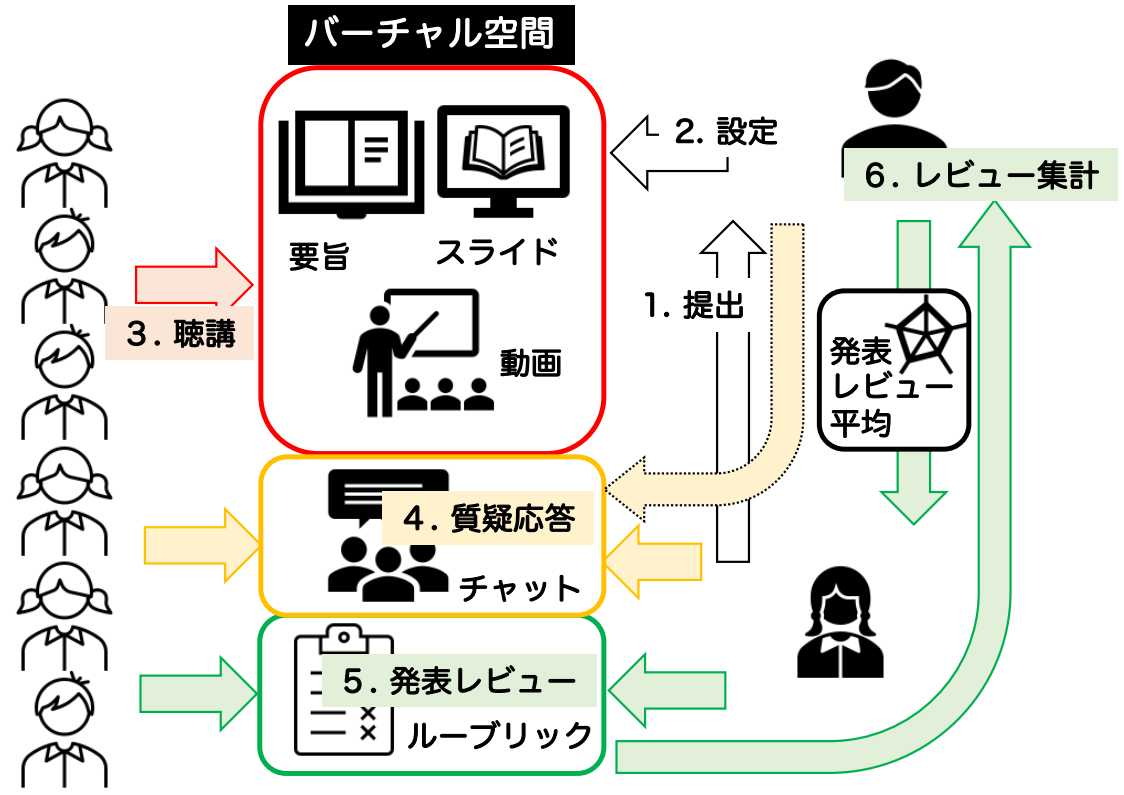
211104セミナー動画 木口.mp4
動画

211104セミナー要旨 木口.docx
Word

211104セミナースライド 木口...
PDF

211104セミナー動画 木口.mp4
動画

211104セミナー要旨 木口.docx
Word



2021年度_ゼミチャンネル

スレッド #2021年度_ゼミチャンネル

発表者はできていたでしょうか、何かわかることがあれば 2021年12月2日 - うろしくお願いします。

1件の返信

山口 美穂 18:07
発表者様へ
発表お疲れ様でした。
スライド5ページ目について、30分以内で理解したときにリン酸化レベルは上がるということでしょうか？30分以内にリン酸化レベルが急激に上がりますが、何分以内の間にリン酸化が急激に上がるのか、もう少し詳しく教えていただけますでしょうか。

1件の返信

吉村 美歩 18:12
発表者様へ
発表お疲れ様でした。
質問が帰って来たら申し訳ないですが、スライド5枚目、結果として25種のHKが自己リン酸化 (ICDA, Y69を除く)とあり、バンドが濃いほどリン酸化レベルが急激に上がりますが、30分以内で理解したときにリン酸化レベルは上がるということでしょうか？30分以内にリン酸化レベルが急激に上がりますが、何分以内の間にリン酸化が急激に上がるのか、もう少し詳しく教えていただけますでしょうか。

1件の返信

山口 美穂 18:24
発表者様へ
発表お疲れ様でした。
スライド5、7の部分が質問があります。スライド5でアスバラギン酸やリンゴ酸、フルクトース6リン酸以外の代謝経路にも使用されていることが予測された部分は分かったのですが、その他のスライド7において急にアスバラギン酸の濃度のみに着目しているように感じました。他のフルクトース6リン酸やリンゴ酸については、アスバラギン酸濃度の急激な上昇を促すことができるので、アスバラギン酸に焦点を置いたと思います。図の冒頭ではフルクトースが影響しているという言い方がなかったです。正しくは、図で示したアスバラギン酸がさらなる代謝プロセスに利用されていることを考え上でこの実験を行なっています。

1件の返信

吉村 美歩 11月10日
発表者様へ
ご質問ありがとうございます。私の回答が足りません。今回は特にアスバラギン酸に着目して実験を行っています。1番大事部分です。スライド5、7の部分が質問があります。スライド5でアスバラギン酸やリンゴ酸、フルクトース6リン酸以外の代謝経路にも使用されていることが予測された部分は分かったのですが、その他のスライド7において急にアスバラギン酸の濃度のみに着目しているように感じました。他のフルクトース6リン酸やリンゴ酸については、アスバラギン酸濃度の急激な上昇を促すことができるので、アスバラギン酸に焦点を置いたと思います。図の冒頭ではフルクトースが影響しているという言い方がなかったです。正しくは、図で示したアスバラギン酸がさらなる代謝プロセスに利用されていることを考え上でこの実験を行なっています。

1件の返信

山口 美穂 18:45
発表者様へ
発表お疲れ様でした。
スライド5枚目のグラフのところ、リン酸が増加する理由が分かったのですが、冒頭の時に、コハク酸が減少しているのが気になりました。何か考えられる理由などあれば教えていただきたいです。

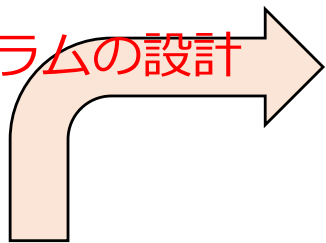
1件の返信

吉村 美歩 18:57
発表者様へ
発表お疲れ様でした。
スライド5枚目のグラフについて、大腸菌培養時の実験をなぜ行ったのか、あまり製りが見えませんでした。この実験を行う上での留意点などありましたら教えていただきたいです。

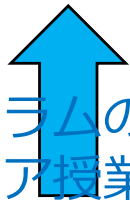
大域別	種別	種別の説明	評価項目				
			1 (総合評価) に該当する評価項目を挙げる	2 (総合評価) に該当する評価項目を挙げる	3 (総合評価) に該当する評価項目を挙げる	4 (総合評価) に該当する評価項目を挙げる	5 (総合評価) に該当する評価項目を挙げる
講義内容	内容 (構成)	講義の目的や内容が明確である	講義の目的や内容が明確である	講義の目的や内容が明確である	講義の目的や内容が明確である	講義の目的や内容が明確である	
	内容 (内容)	講義の内容が最新の知見に基づいている	講義の内容が最新の知見に基づいている	講義の内容が最新の知見に基づいている	講義の内容が最新の知見に基づいている	講義の内容が最新の知見に基づいている	
発表内容	発表時間	発表時間が適切である	発表時間が適切である	発表時間が適切である	発表時間が適切である	発表時間が適切である	
	発表内容	発表内容が明確である	発表内容が明確である	発表内容が明確である	発表内容が明確である	発表内容が明確である	
発表形式	プレゼンテーション	プレゼンテーションがわかりやすい	プレゼンテーションがわかりやすい	プレゼンテーションがわかりやすい	プレゼンテーションがわかりやすい	プレゼンテーションがわかりやすい	
	発表形式	発表形式が適切である	発表形式が適切である	発表形式が適切である	発表形式が適切である	発表形式が適切である	
コミュニケーション	質疑応答	質疑応答が適切である	質疑応答が適切である	質疑応答が適切である	質疑応答が適切である	質疑応答が適切である	
	ディスカッション	ディスカッションが適切である	ディスカッションが適切である	ディスカッションが適切である	ディスカッションが適切である	ディスカッションが適切である	

学部・研究科レベルの支援

カリキュラムの設計



カリキュラムの点検
(メディア授業管理など)



教育課程 (科目群など)

教務システム

単位制度

卒業所用要件 (修学年年限など)

科目群の説明と単位数

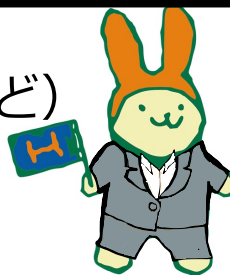
GPA制度 (利用する科目群)

履修コース

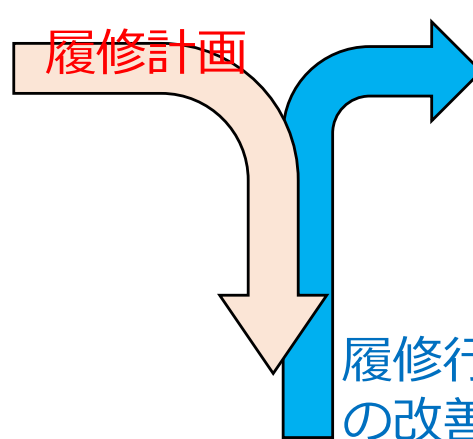
進級条件

履修登録の上限

取得資格の案内

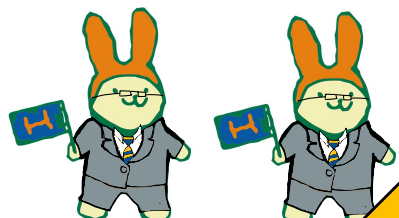


履修計画



履修行動
の改善

報告



履修登録科目

教務システム

単位取得科目

GPA

履修・取得DP値

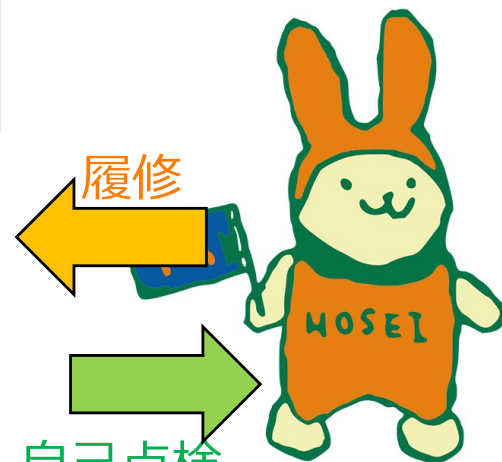
↓

成績優秀学生の指導

成績不振学生の指導

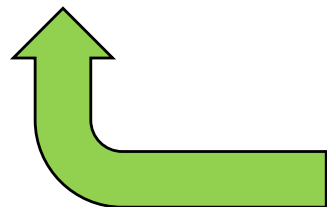
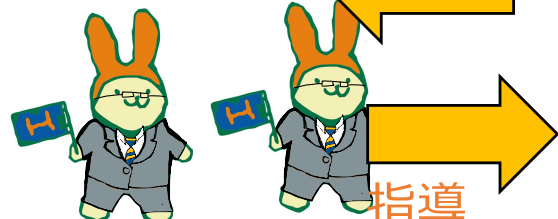
学生カルテ

履修



自己点検

指導



カリキュラム運営
データの可視化

授業改善アンケート学部集計

チューター・奨学生の推薦

GPCA学部集計

全学共通科目の履修推奨

履修・取得DP値学部集計

履修行動パターン

FDシステム

Department, Hosei University



全学レベルの支援

理念・目標の実現
に向けた施策検討

理念・教育目標
中長期経営計画の施策
専門学修の深化
現場の学び
多様性を尊重する学び



法政大学
における
学びへの
挑戦

多様な
学習への
動機

本学での学びの特徴分析
(全学DPマップ作成)
(新しいキャンパス利用)



施策

開講する授業形態の周知
オンデマンド授業支援 (大規模・反転)
ハイフレックス授業設備の充実
共通教育科目の管理

全学共通教育プラットフォーム

成績優秀者の他学部科目履修制度
サーティフィケート科目 (DS入門など)
博士後期課程生へのプレFD



履修
取り組み

ピアネットによる正課外企画
特別入試入学者向けe-Learning
プレースメントテスト

**All Campus
全体最適化プロジェクト**

在校生の学修基盤
在校生の学修トレンド
教室レベル
のキャンパス管理

教室レベル稼働率
全学共通科目の履修・取得・成績
正課外活動の実績
リメディアル教育の結果

入学生・卒業生・既卒生
IRアンケート

正課学習の点検
正課外学習の点検
法政大学での学びの点検

法政大学DX推進計画が実現する教育学習の高度化

学生

学習履歴（履修・成績）
履修プログラム等の習得
正課外活動
各種資格取得
外部試験スコアなど
履修・キャリア相談履歴

個別最適化された学び

学習成果の可視化による
到達度の実感・振り返り
学修履歴の可視化による
習得特性から進路の展望

「頑健性」
「多様性」
「創造」

HOSEI Hi-DXプラットフォーム

科目特性・データ
ディプロマポリシー
ナンバリング
シラバス
履修モデル
授業改善アンケート

学生の学習状況
・成果のフィードバック
教育方法の改善
教育学習環境の整備
成績不振者の指導
多様な学びの整備
キャリア支援
ディプロマポリシーの見直し
カリキュラム改革

大学・学部

PDCA
データに基づく検証



当面の課題

- 対面・オンライン授業の効果的教育学習の共有
グッドプラクティスなど工夫の共有
リテラシー教育
- 外れ値として見える学力
成績優秀者の更なる学びの向上
成績不振者へのミスマッチ解消などの的確な指導
- 「法大生としての学び」の可視化（深める／広げる）
法政大学DP×学部・研究科DP
+ 全学共通教育科目、正課外活動など



謝辞

「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」事業



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

法政大学

「HOSEI Hi-DXによる個別最適化された学び～法政モデルの実践」

